

# 症例解析演習 I

Pharmacotherapy Case Study I

薬：F1-02412MY

医療科目 4年／前期 1単位 必修科目

科目責任者 大野 恵子(薬剤情報解析学研究室)／野澤 玲子(薬理学研究室)

## ■教育目的

薬物治療学 I～V及びその他の関連する医療薬学系統講義で学んだ知識を模擬症例の薬物治療に応用し、より実践的な知識として理解を深める。すなわち、薬剤師の視点から、目の前の患者が有する問題点を解決するために、適切な薬を適切な用法・用量で使用し、治療の有効性と安全性を評価し、必要に応じて治療プランを修正する一連のプロセスを学ぶ。【卒業認定・学位授与の方針：YD-①、YD-③、YD-④、YD-⑥】

## ■学習到達目標

1. 薬剤師として薬物治療を評価・実践するための考え方(ポイント)を説明できる。(知識)
2. 薬物治療に必要な患者基本情報を列挙できる。(知識・技能)
3. 代表的な疾患の症例について、患者情報および医薬品情報などに基づいて薬物治療の評価について討議し、薬物治療計画を立案できる。(知識・技能・態度)
4. 問題志向型システムに基づき、SOAP形式で薬物治療評価記録を作成できる。(知識・技能)

## ■準備学習(予習・復習)

予習：事前に配布される症例に関して、薬物治療学等の講義内容を復習し、必要に応じて診療ガイドラインや医薬品情報等を参照して予習レポートを作成する(60分以上)。

復習：当日の演習内容を振り返り、各自でリフレクションペーパーを作成する(30分以上)。

## ■授業形態

課題解決型学習、ディスカッション・ディベート、グループワーク、プレゼンテーション、双方向型授業

## ■授業内容

本演習では、Small Group Discussion (SGD)により薬物治療評価演習を行う。1・2限連続授業であるので、基本構成は session 1 (50 分間)、10 分休憩後、session 2 (50 分間)、10 分休憩後、session 3 (50 分間)とする。

前週に提示された模擬症例(全 6 疾患)について、適切な情報源を参照しながら各自予習を行う。当日の演習にて学生間で意見交換(SGD)をしながら、模擬症例における薬物治療上の問題を挙げ、主要な問題点に対して根拠に基づいた望ましい薬物治療法とそのモニタリング計画を立案し、その内容を SOAP 形式で記録する。

No.	項目	授業内容	備考・SBO コード
1-3	オリエンテーション	薬物治療評価の概要、薬物治療評価に関する演習例	E2(2) ① 1、E2 (11) 1～3、E3(2) ② 1～3
4, 5	ベーシック薬物治療評価 1	薬物治療評価に関する演習	同上
6, 7	ベーシック薬物治療評価 2	薬物治療評価に関する演習	同上
8, 9	ベーシック薬物治療評価 3	薬物治療評価に関する演習	同上
10, 11	ベーシック薬物治療評価 4	薬物治療評価に関する演習	同上
12, 13	ベーシック薬物治療評価 5	薬物治療評価に関する演習	同上
14, 15	ベーシック薬物治療評価 6	薬物治療評価に関する演習	同上

## ■授業分担者

大野 恵子、蒲生 修治、菅野 敦之、榎山 暁史、山崎 紀子、山谷 明正、野澤 玲子、安 武夫、杉 富行、鈴木 陽介、高橋 雅弘、永井 純子、宮沢 伸介、望月 靖子、小田 絢子、山室 大介

## ■課題(レポート、試験等)のフィードバック及び成績評価方法

SGD を通じて学生相互に予習課題についての理解を深める。演習時間内に行う解説等により、随時、フィードバックを行う。予習レポート(40%)、ラーニング・ポートフォリオ(60%)で評価する。

## ■教科書

Dynamed (学内専用：my-port からアクセス)、Micromedex DRUGDEX (学内専用；my-port からアクセス)、医薬品集(『治療薬マニュアル』(医学書院)、『今日の治療薬』(南江堂)、『治療薬ハンドブック』(じほう)など)、薬学総合演習テキスト(京都廣川書店)

## ■参考書

各種専門学会が作成する診療ガイドライン(最新版)、医薬品添付文書等の医薬品情報(医薬品医療機器総合機構 [PMDA] web サイトから入手可能)、Applied Therapeutics: The Clinical Use of Drugs, 12th (Wolters Kluwer)、Dipiro's Pharmacotherapy: A Pathophysiologic Approach, 12th (McGraw-Hill)

## ■ その他

ラーニング・ポートフォリオは、ルーブリックにて評価する。